

令和7年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県砺波青少年自然の家 生涯学習・文化財課

2 施設所在地
砺波市徳万字赤坂17-5

3 施設設置年度
昭和55 年度

4 設置目的
自然環境の中で集団生活を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図る。

5 施設概要
施設面積：55,830.17㎡
主な施設
・本館：鉄筋コンクリート造り3F 3,740.84㎡ 宿泊定員223名
・体育館：鉄筋コンクリート造り 1,525.29㎡
・便所・炊事場：32.40㎡
・車庫：25.75㎡
・物置：13.24㎡

6 指定管理者
株式会社日本ビルサービス

7 指定期間
3 年
令和6年4月1日 ～ 令和9年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R3	R4	R5	R6	R7
10,949	14,823	17,644	20,077	20,429

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R3	R4	R5	R6	R7
2,334	6,535	8,407	9,307	9,860

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R3	R4	R5	R6	R7
16,192	16,192	16,192	13,832	16,192

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・令和7年度は令和6年度と比べ、利用者数・利用料金収入共に微増となった。学校やスポーツ団体をはじめ、ほとんどすべての団体利用が少子化による縮小傾向の中、射水市や高岡市の小学校が増加したことが要因であり、各市の教育委員会や校長会への働きかけの成果が少しずつ出てきていると思われる。

・利用料金収入は、令和6年度に比べ若干の増収となったが、利用料金の収入見込み額とは隔たりがあり、引き続き収入増に努めてもらいたい。

(2) サービス向上に向けた取組み

・野外活動や館内活動の説明資料をHPからダウンロードできるようにし、自然の家に来所することなく活動の詳細を確認できるようにした。

・以前よりイベント申し込みの際、Googleフォームを利用し、いつでも申し込めるような形式にしていたが、令和7年度からはアンケートについてもフォームを取り入れている。いつでも回答できる手軽さがある反面、回収率が極端に下がる場合もあるので、伝え方などを改善していきたい。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・令和7年度も様々な自主事業を実施することで一定の収入を確保できた。内容を充実させ、「体験価値を高める」部分を工夫し、その価値に見合った料金を設定することで収入増につなげることができた。また、事業によっては定員の5倍以上の申し込みもあり、落選者が多数いる状況もあった。その対応として同じ内容で再度実施したり、別の事業の案内メールを送ったりするなど、需要を丁寧に汲み取ることも収入の増加につながったと考えられる。

・令和6年度まではほとんどの活動プログラムは無料で提供してきたが、維持管理や道具の購入に少なくない支出があった。近年、国立の施設を中心に活動プログラムの有料化を進めていることも踏まえ、当施設でも有料化にかじを切った。大きな負担にならない程度の料金設定とし、実際に苦情などはなかった。この部分の収入については活動プログラムの充実や備品の整備に投資していきたい。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	利用時にアンケートを配布（五択形式）
回答者数	216団体
結果	①宿泊室によってエアコンの効きが悪い部屋がある ②携帯の電波が悪く、Wi-Fi設備も充実していない
結果を踏まえた改善事項	①年度末宿泊室のすべてのエアコンの点検・クリーニングを実施した ②Wi-Fi設備の充実を進めていく計画を立てているが投資も必要のため、令和7年度については事前に電波状況があまりよくないことを伝えるようにした

② その他利用者の声を反映させる取組み

・運営委員会（年2回）で各方面の関係者からの意見を聴取。

③ 主な苦情と対応

①の「結果」、「結果を踏まえた改善事項」に記載

(5) 個人情報保護の取組み

- ・個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護に努めている。
- ・メールの一斉送信やSNSへの投稿の際は、必ずダブルチェックを行っている。

(6) 関係団体との連携

- ・砺波市の依頼で熊対策のAIカメラ(Bアラート)を設置し、周辺のクマ出没情報を提供。
- ・南砺市児童クラブ連合会と連携し、「ふれあいキッズフェスタ2025」に体験ブースを設置。
- ・砺波市B&G海洋センターと連携し、マリーナフェスティバルに参加。
- ・黒部市ふれあい交流館と連携し、「あこや〜のオープンデー」に体験ブースを設置。
- ・国立能登青少年交流の家と連携し、「SmileFestival」に体験ブースを設置。
- ・国立立山青少年自然の家と連携し、「立少フェスティバル」に体験ブースを設置。
- ・高岡法科大学と連携し、法科大学祭に体験ブースを設置。
- ・般若公民館と連携し、公民館まつりに体験ブースを設置。
- ・富山県青少年教育施設協議会との連携事業として、ショッピングモール等でクラフト体験会を実施。

(7) 施設・設備の維持管理

- ・冷温水発生機の入替えが完了し、全館冷暖房が可能となった。1年以上利用者に迷惑を掛けることとなったが、アンケートでは高評価となっている。
- ・体育館の床が徐々に滑りやすくなってきたため、年末年始を利用しウレタン樹脂の研磨、塗装を実施した。グリップが効きやすくなり、スポーツ団体から喜ばれている。
- ・宿泊室のエアコンは故障した際にその都度対応していたが、年度末に一斉点検、クリーニングを実施した。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・危機管理マニュアルや非常時の緊急連絡網を作成し、具体的なケース研修会を行ったり、訓練の実施をしたりしている。
- ・毎月の安全点検に加え、活動前の活動場所・設備の保守・点検、野外コースを利用する際の熊払いを必ず実施している。
- ・利用団体に対しては、火事や地震などの緊急時の避難について、オリエンテーションを行い必ず説明している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12回
有	6回
無	—
有	1回

【トラブルの具体的内容と対応】

- ・令和7年4月に、4階機械室に設置されている給湯ボイラーのエア抜きバルブから重油漏れが発生した。機械室の排水口から屋外の側溝に流れたが、施設外に出る前に発見することができた。回収した重油の処理と、排水口や側溝の洗浄を専門業者に実施してもらった。また、機械室は経年劣化から床のコンクリートに隙間ができており、階下の3階ロビーに浸潤したため、天井や床材の張替を行った。

11 今後の課題等（収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載）

- ・利用料金収入については見込み額との隔たりが大きく、収入確保に向けて令和6年度から自主事業に力を入れてきた。令和7年度についても他の施設にない“砺波らしい”イベントを企画・運営し、徐々に効果を上げてきたが、いまだ十分とはいえない。
- ・大きな懸念材料としては、今後支出の増加がさらに見込まれることである。現下においても、光熱水費や物価などの高騰により経費節減が難しい状況であり、指定管理者側の職員人件費の増加が重なった場合、収支状況の悪化が懸念される。
- ・引き続きSNSを使った広報や各種団体への直接PRに力を入れ、利用者の増加と収支の改善に取り組んでいただきたい。